


指導資料

地歴・公民第19号

 鹿兒島県総合教育センター
令和5年4月発行

対象
校種

中学校 義務教育学校
高等学校 特別支援学校



学習指導要領に対応した「思考・判断・表現」の評価について — 令和7年度大学入学共通テスト「公共」試作問題を通して —

- ◆ 整理された資質・能力の一つ「思考力、判断力、表現力等」とは、公民科の目標「公民としての資質・能力」の育成を目指し、「理解していること、できること」を「どう使うか」である。
 - ◆ 「思考・判断・表現」は、公民科における「見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする際に、適切な概念等に着目して考察したり、構想したり、その過程や結果を表現したりする学習過程を適切に設定し、その実現状況を評価することが大切である。
- # 「公共」における「思考・判断・表現」の評価 # 共通テスト「公共」

1 はじめに

平成30年に告示された高等学校学習指導要領(以下、学習指導要領)によって、地理歴史・公民科でも大きな変革があった。公民科においては、「現代社会」は廃止となり、替わって「公共」が必修科目として設置された。選択科目の「倫理」、「政治経済」は、名称は従前と同様だが、「公共」を学んだ上での探究科目として位置付けられており、その性格は大きく変容している。令和4年度から年次進行している新教育課程の下での授業の進め方や必須となった観点別学習状況の評価について、先生方からこういった悩みを聞くことがある。

● どのような授業をしていけばいい?

● 評価の3観点のうち、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法がよく分からない。

● 受験を見据えれば、結局重視すべきは「知識及び技能」なのでは? 「思考力、判断力、表現力等」の指導に力を入れていたら教科書は終わらない。

これまで、地理歴史・公民科では、「何を教

えるか」が優先され、それに次いで「どのように教えるか」を考えるのが常であった。澤井¹⁾

(令和4年)が、「現行の学習指導要領は、すべての教科等で、資質・能力を育てることを目標に掲げている。この目標を実現するには、単元ごとに育成を目指す資質・能力の具体を明らかにし、単元の学習を通じてしっかり育成できたかを確認しながら授業づくりを進めていくことが求められる。」と指摘しているように、資質・能力の育成のためには「評価から授業をつくる」ことが必要である。

これらのことを踏まえ、本稿では、公民科の「思考・判断・表現」の評価について、大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の分析から考えていきたい。

2 社会的な見方・考え方を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成

『学習指導要領解説 公民編』²⁾では、「社会的な見方・考え方」は、「思考力、判断力、表現力等」の育成に当たって、重要な役割を果たすものとして捉えて、他の二つの資質・能力との関連について、以下のように説明している。

公民科の学習においては、社会的事象等について考察する中で「知識及び技能」の習得につながったり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する中で、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度が育まれ、「学びに向かう力、人間性等」が涵養されたりする（中略）。

学習指導要領の目標において、「思考力、判断力、表現力等」は、以下のように示されている。

現代の諸課題について、①事実を基に②概念などを活用して③多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。（下線等は筆者による）

各科目の内容は、すべての中項目に、「知識及び技能」に関わる事項アと、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項イとに分かれ、更に小項目に分けて示されており、各項目で育成すべき資質・能力の具体がつかみやすい構造になっている。

図1は、小学校、中学校、高等学校において育成する「思考力、判断力、表現力等」の要素を整理したものである。校種が上がるにつれて、徐々に育成していくというイメージである。参考にしていただきたい。

①「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる	小	中	高	思考力を「考察する力」とし、多面的・多角的な考察や概念の活用を基軸としている。
社会的な見方・考え方を活用して、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力 社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる	小	中	高	
②「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力 社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる	小	中	高	判断力を「構想する力」とし、社会に見られる課題の解決に向けた公正な判断に向かう段階を描いている。
社会的な見方・考え方を活用して、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる	小	中	高	
③考察したこと、構想したことを説明する力 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明したり議論したりできる	小	中	高	「なぜ」、「どうして」と考察し、「どうしたらよいか」、「どの解決策がより望ましいか」判断する。
主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる	小	中	高	
④考察したこと、構想したことを基に議論する力 合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象等について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる	小	中	高	
他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる 他者の主張につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる	小	中	高	

図1 「社会科、地歴公民科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ」（出典：中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について『答申』」平成28年、別添資料³⁾）

3 「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」は、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」を身に付けているかを評価するものである。

評価規準の作成に当たっては2で下線を記した三つがポイントになる。特に②のポイントでは、公民科における「見方・考え方」を働かせることと深く関わる。課題を追究したり解決したりする際に、適切な概念等に着目して考察したり、構想したり、その過程や結果を表現したりする学習過程を適切に設定し、その実現状況を評価することが大切である。評価規準としては、単元の内容から設定した目標を、生徒が「…表現している」という学習状況として表す。

次のような評価方法が考えられる。

- ペーパーテストにおいて、出題の仕方を工夫して評価
- 論述やレポートを課して評価
- 発表（スピーチ、プレゼンテーション）やグループでの話し合いなどの場面で評価
- 作品の制作などにおいて多様な表現活動を設けポートフォリオなどを活用して評価

「思考・判断・表現」の評価のためには、教師は「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒が「思考・判断・表現」する場面を効果的に設定するなどした上で、指導・評価することが求められる。

4 令和7年度共通テスト試作問題から

(1) 問題作成方針の方向性（全教科共通）

令和7年度共通テストは、学習指導要領に対応するものへと再編される。独立行政法人大学入試センター⁴⁾から示された令和7年度共通テストの問題作成方針に関する検討の方

向性の概略は以下のとおりである。

- 従来の方針を重視しつつ、新学習指導要領を踏まえ、趣旨をより明確化する。
 - ア 新学習指導要領で示している知識の質、思考力・判断力・表現力等を重視するとともに、教科横断的に育成する言語能力、情報活用能力等にも留意する。
 - イ 各教科の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価するため、各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定の工夫を重視する。
- (下線は筆者による)

学習指導要領が「思考力、判断力、表現力等」をより重視したものに変わったことで、令和7年度共通テストは、知識や技能を活用し「思考力、判断力、表現力等」を発揮して解くことが一層求められていることが分かる。

(2) 問題作成方針の方向性 (教科)

地理歴史・公民科においては、必履修科目の組合せ及び必履修科目と選択科目の組合せの計6種を出題することが示された。問題作成については、「学習指導要領に示されている科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する」と示された。

(3) 試作問題の分析

ア 「公共」(図2)

問2 生徒Xたちは、日本とヨーロッパのOECD加盟国について、次の図1・図2を示しながら「日本は出産・子育て支援策として、保育サービスなどの『現物給付』の充実を図る必要がある。」という提案を行うことにし、事前に他のグループに説明したところ、後のア～エのような意見が他の生徒からあった。

ア～エのうち図1・図2を正しく読み取った上での意見の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 [14]

図1 「現金給付」対GDP比と合計特殊出生率

図2 「現物給付」対GDP比と合計特殊出生率

図2 『地理総合、歴史総合、公共』の第4問、『公共、倫理』『公共、政治・経済』の第2問⁴⁾から一部抜粋。下線等は筆者による。

人口減少が社会に与える影響と対策について、考察、構想する問題である。図1, 2を読み取り、そこからどのようなことを主張することができるのか問われている。単に図を読

み取れるかどうかではなく、そこからどのようなことを主張することができるのかについて考察する力が求められる。

イ 「倫理」(図3)

場面2 生徒G、生徒H、生徒Iは、発表の相談のため再び集まり、次の会話をしている。

H: 調べたら、動物も遊ぶのが大好きだったり、仲間がいないとふさぎこんだり、そういうところは人間とちっとも変わらないんだって。

G: でも、人間の場合は、成長していくなかで、他の人との関係を築くことが大切だし、一人一人の多様な幸せだけでなく、社会全体の幸せもめざしているから、人間はやっぱ人間に特有の面もあるんだよね。そう考えると、人間の幸福と動物の幸福は違

H: では、アニマルウェルフェア とについて意見をまとめよ

I: A

G: どうしてそう思ったの?

I: B

問4 場面2の会話文中の空欄Aと空欄Bに当てはまる発言を、生徒Iになつたつもりで考え、次の(1)、(2)の問いに答えよ。

(1) まず、Aに当てはめたい発言を、次の①～④のうちから一つ選び、そのいづれかをマークせよ。なお、(1)で①～④のいづれを選んでも、(2)の問いについては、それぞれに対応する適当な選択肢がある。 [27]

① 配慮が行われたとしても、家畜は幸せではないと思うな。
 ② 配慮が行われているなら、家畜は幸せだと思うな。
 ③ 配慮が行われないとしても、家畜は幸せだと思うな。

(2) 次に、Bに当てはまる、(1)で選んだ主要の内容に対する論拠を述べた発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [28]

図3 『公共、倫理』の第5問⁴⁾から一部抜粋。下線等は筆者による。

現代的な諸課題の一つとして「動物の幸福」を取り上げ、様々な立場を理解した上で、自分はその立場に立つのか、その立場の主張を行う上でどのような根拠が必要かについて考える問題である。多様な意見があることを踏まえた上で、自分の立場を明確にし、さらにその論拠を構想する力が求められる。

ウ 場面設定

前述した4(3)アを分析する。人口減少社会の在り方を探究するという場面設定で、以下のリード文から問題が展開された。

第2問 「公共」の授業で1年間のまとめとして、生徒Xは同じ関心をもつ生徒たちとグループをつくり、「人口減少が続く中でどのような社会をつくれればよいか」という課題を設定し、探究活動を行った。これに関して、後の問い(問1～4)に答えよ。(配点12)

- 〈小問の展開〉
- 要因や対策を考察、資料を収集・分析
 - 対策について協働的に構想
 - 中間発表で出た意見から再構築
 - 最終発表、振り返り

独立行政法人大学入試センターは、問題の場面設定において、「社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を考察する場面、考察したことを整

理して表現しようとする場面など、探究的に学んだり協働的に課題に取り組んだりする過程」を例として挙げている。生徒がこのような学びの過程に慣れていけば、円滑に取り組めるだろう。これは、教師への授業づくりのメッセージである。

5 評価に着目した「思考力、判断力、表現力」を育成するための授業づくり

学習指導要領や試作問題を踏まえ、「公民としての資質・能力」の三つの柱を一体的にかつバランスよく育成するための授業づくりが大切である。特に、学習の過程で、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。図4は、課題を追究したり解決したりする活動における学習過程のイメージである。

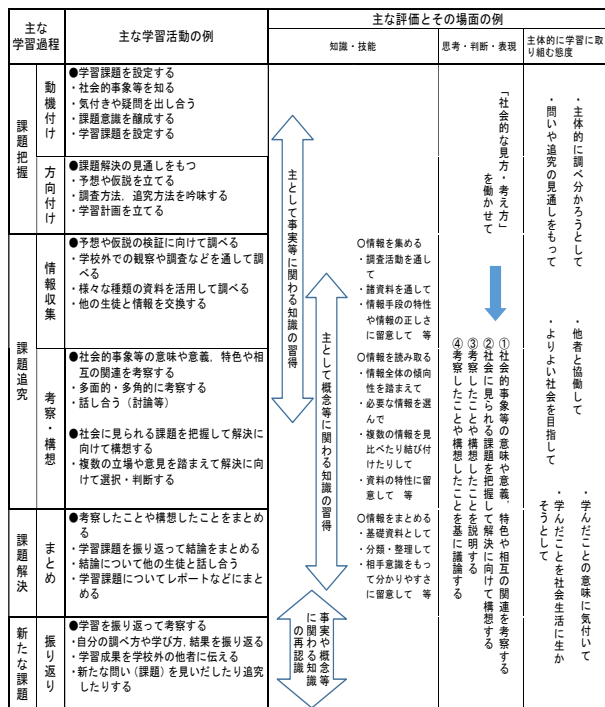


図4 社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージから作成

以上を踏まえ、筆者が1年生を対象に行った公共の学習指導案（一部）を紹介する。

授業づくりのポイントは、自分事として考えさせるような問いの設定、目標及び評価の明確化（評価規準を生徒と共有）、ICTの効果的な活用（授業支援システムロイロノート・スクールの共有機能、アンケート）の3点である。

〈本時の目標〉 幸福、効率、公正などに着目して、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察、構想する活動を通して、公共的な空間における個人と社会との関わりについて多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

過程	ねらい・学習活動等	評価規準等
課題の把握	公共的な空間をどのように作ってあげればよいか。	
	1 学習解決への見通しを立てる。	○単元を貫く問いに対する答えを予想しながら、課題解決への見通しを立てている。【態】
課題の探究	ペンサムの功利主義とカントの義務論を用いて、現代社会の諸課題について考えよう。	
	2 医療現場におけるトリアージの問題について考える。	
	大災害時の救急現場、あなたならどうする？	
	3 意見を共有する。 4 患者に家族がいたらどうするか考える。	●幸福、効率、公正などに着目して、倫理的価値の判断において、概念などを基に考察、構想したことを、論拠をもって表現している。【思】 ○どのような変化が見られたのか自分の内面を言語化している。【思】 ●具体的な立場を想像させ、多面的・多角的に考えている。【思】
課題の解決	5 振り返りをする。 ・今日の授業で考えたことや分かったことを記述する。	○よりよい社会の形成に参画することに向けて関心を持ち、問い続けていくべき現代の諸課題と問い続けていくことの意義を見出している。【態】

●「学習改善につなげる評価」○「評定に用いる評価」
※ 評価規準等の表記：「思考・判断・表現」→【思】
「主体的に学習に取り組む態度」→【態】

6 おわりに

毎日教壇に立つ教師は、「生徒は評価されるものを身に付けようとする」ことを知っている。「評価から授業をつくる」という発想で、まず、「何ができるようになるか」を設定し、次にそれを達成するために、「何を」、「どのように」学ばせればよいのかを考え、授業づくりをすることが求められている。

望ましい指導と評価について、更に研究を深めていきたい。

－引用・参考文献－

- 1) 澤井陽介『できる評価・続けられる評価』令和4年、東洋館出版、p.2.
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』平成30年、東京書籍、p.9., p.24.
- 3) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について『答申』平成28年、別添資料
- 4) 独立行政法人大学入試センター「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性について」令和4年11月（教科教育研修課 迫田 有紀）

※ 本資料は、UDフォントを使用しています。